

第50回衆議院選挙 27日投開票 愛知10区（一宮・岩倉市）藤原のりまさ氏 当選 「私ではなく市民と野党の共闘の底力を示した」

27日投開票の衆議院選挙で愛知10区候補者、立憲民主党・野党統一候補藤原のりまさ氏が当選しました。藤原氏は当選について「私ではなく、市民と野党の共闘の底力を示した」と語りました。

事務所に、一宮市長・岩倉市長、一宮市議会議長・副議長が表敬訪問しました。



左から一宮市長、藤原のりまさ氏、岩倉市長

得票結果	
藤原のりまさ	59,691
若山しんじ	59,529
杉本和巳	52,957

日本共産党 小選挙区沖縄1区、比例7議席獲得 総選挙の結果について しんぶん赤旗 10/29「主張」より

裏金政治への国民の審判が下りました。総選挙の結果、与党の自民・公明両党は合わせて過半数を下回り、2009年に民主党（当時）に政権を奪われて以来の歴史的な大敗を喫しました。自民党が数の力におごり国民の声を甘く見てきたことの象徴です。今回の結果は国会を無視し立憲主義を踏みにじってきた自民党政治そのものへの審判です。

日本共産党は、赤嶺政賢氏が小選挙区の沖縄1区で激戦を制し当選しました。比例では7議席となり前回の9議席から後退する悔しい結果となりました。ご支援をいただいた方々、支持を広げていただいた方々に心から感謝いたします。

■追い詰めた「赤旗」

自民党は247から191議席へと大きく減らし、裏金候補46人中下村博文元文科相、高木毅元国対委員長、武田良太元総務相ら28人が落選。甘利明元

幹事長など党の役職経験者や牧原秀樹法相、小里泰弘農水相の現職閣僚2人も落選しました。

自民党の裏金非公認候補を推薦した公明党は、石井啓一代表が落選。現職代表の落選は09年以来です。

自民党を追い詰め、政治的画期をなす大激動をもたらしたのは間違いなく日本共産党の論戦と「しんぶん赤旗」です。そもそも裏金問題を暴き岸田文雄政権を退陣に追い込んだのは本紙日曜版の報道です。これなしに今日の事態はありませんでした。

さらに決定打となったのは、各メディアも指摘するように、裏金で非公認になった候補に自民党本部が政党助成金から2千万を振り込んだことを暴いた本紙の特報です。自民党に自浄能力がないことを白日の下にさらし、自民一強政治を会わせることに貢献しました。日本共産党の機関紙として、草の根の力で支えられている「赤旗」でこそ発揮できる役割です。

■政治変えたい願い

国民の怒りの元には、裏金政治の一方で、国民は苦しい生活を強いられていることがあります。日本を経済成長しない国、賃金が上がらない国にし、消費税増税や物価高を放置した経済無策、5年間で43兆円もの大軍拡で暮らしと平和を押しつぶす自民党政治を変えたいという国民の強い願いが、政治を前向きに動かす可能性を開きました。

今後、自民党政治に代わる政治をどうつくるか、各党に問われます。日本共産党は金の力で政治を動かす企業・団体献金の禁止を一貫して求め、いまや他の野党も主張しています。自公過半数割れを受け今後、その実現が必須です。

大幅賃上げ、労働時間短縮、社会保障の拡充、教育無償化などもすすめなければなりません。日本共産党はそれらの公約実現に全力を挙げます。

敵基地攻撃能力の保有、武器輸出など「戦争する国づくり」を阻止し、軍事同盟強化ではなく、戦争の心配のない憲法9条にもとづく外交実現に力を尽くします。選挙での論戦は今後の国会内外での闘いに生きる

と確信しています。多くの方々にご奮闘いただきながら期待に応える結果が出せなかった結果を受け止め、党内外の声に耳を傾けて要因を分析し、次の闘いにつなげる決意です。



●以下の陳情書が議会に提出されました。

私立保育園の運営充実に関する陳情書

令和6年9月27日

一宮市議会議員 竹山聡

請願者

一宮市大和町苅安賀字角出 80

氏名 一宮市民間保育協会

会長 末松譲 (大和保育園園長)

陳情の趣旨

平素より保育行政で保育の充実に向け、御尽力されていることに感謝申し上げます。さて、現在民間保育園を取り巻く状況は大変厳しいものがあります。特に保育士不足は深刻です。保育士確保の為に紹介会社を利用する以外に術がないのが現状です。保育士1人の紹介料は年収の30~35%という大変高額にのぼり、保育園の経営を大きく圧迫しています。

また、市の補助制度におきましても公私の格差が現実存在します。市の民間への補助制度の是正をすることが急務であると考えます。

議員各位におかれましては、民間保育園運営の窮状へのご理解を頂き、充実した保育を子どもたちに提供できるよう保育園の運営の改善を図っていくため、お力添えを頂ければと思います。

以上の要旨のもと、以下の事案について陳情いたしますので、よろしく取り計らいをお願い致します。

陳情の本文

- 1 保育士雇い上げへの補助金制度の新設を。
- 1 おむつの処理代への補助を
- 1 少子化対策への具体策と民営化及び統廃合を含む長期計画を提示すること
- 1 運営費への補助制度を県内各市と比して、一宮市は不十分であると思われるので、具体的な是正策を提示すること。並びに障害児への現行制度の改善を図ること。
- 1 現在民間保育園で建設費を借りている。市の元利償還金への補助については、建設年度によって差がある。3/4の補助の園のレベルに合わせるべきです。

*市内の保育園の現状—公立保育園は計52園、定員7,010人。民間(私立)保育園は計18園、定員2,080人です。女性が働き続け、少子化対策のためにも保育環境の整備は、市の重要課題です。



●市民の声

★水道部が毎年販売している「おりひめ」ファンです。広報6月号で5/31から販売するとのお知らせでしたが、「製造の遅れにより販売日が決まり次第ウェブサイト等で知らせます」と、担当課の対応でした。その後ウェブ9/9で「ボトル容器の製造等に時間を要し、販売時期は2025年1月頃になる見込み」とのことですが、ボトル容器を作るだけでこんなに時間がかかるのか？理解できない。10月から水道料金値上げ？ 冗談じゃない。



★年金の振込通知が届いた。2024年8月は介護保険料11,600円、後期高齢者医療保険料14,000円だった。しかし、10月分は介護保険料17,000円、後期高齢者医療保険料17,200円。保険料が14,200円増えるなどで、年金額が2カ月で16,300円少なくなった。どんどん年金が減っている。高齢者の収入は年金しかないので暮らしていけない。年金を、社会保障予算を増やしてほしい。



★しんぶん赤旗の威力はすごいね。総選挙で自民・公明党が過半数を取ることが出来なかった。自民党派閥による裏金問題への国民の怒りがすごかったから。さらに非公認になった裏金議員に党本部から政党助成金2000万円を支給したことが決定的だったと思う。

日本共産党が、しんぶん赤旗が自民党を追い詰めたのに議席を伸ばせなかったのは本当に残念だ。



★同居の家族(70代)が肺炎(酸素吸入器が必要)で、8月市民病院に入院、リハビリのため木曾川市民病院に転院、11/1退院し、集合住宅の2階の自宅に戻ってきます。1人では階段の上り下りはできません。地域包括支援センターの方に相談し、介護保険の申請をしました。約2カ月後10/28「介護度1」のお知らせが届きました。介護の結果がもっと早く(例えば30日)届き、「介護施設に週2回通う」など早く介護サービスが利用できるようにしてほしい。年金が少ないのに、入院治療費、介護保険料も高額、介護サービス利用すれば介護利用料が高額と聞いています。医療・介護・年金の予算を増やしてほしい。

